

Research into Kanji Ability: The Case of Students at Toyohashi University of Technology

Yasuyuki Nakamori, Yoko Yamada

Abstract

It is said that there has been a decline in the scholastic ability of university students in Japan, and the Japanese ability of these students today has declined as well. With this in mind, we conducted research into the ability of students at Toyohashi University of Technology to read and write kanji. Some of the insights we gained as a result of the research are as follows:

1. There is a big difference between the ability to write kanji and the ability to read kanji.
2. The ability to write kanji from studying in junior high school is very low.
3. The ability to read kanji from studying in junior high school is unexpectedly high.
4. The ability to write kanji and hiragana accurately is low.
5. Vocabulary ability is very low.

Building on these results, we would like to conduct further research into the Japanese ability of university students using different techniques.

大学生の漢字能力の現状——豊橋技術科学大学生の場合

中 森 康 之, 山 田 陽 子

はじめに

大学生の学力低下が指摘されて久しい。もちろん日本語能力も例外ではなく、それに関する調査も方々で行われている。豊橋技術科学大学でも「日本語法」を開講し、学生の日本語能力向上を図っているが¹、ここ数年、やはり学生の日本語能力に変化が生じているように感じられる。そこで、今後の大学教育のあり方を考えるためにも、現状を調査、把握する必要があると考えた。さしあたって今回は、「日本語法」受講生を対象として、小学校3年生から中学校で習う漢字に限定して、学生の漢字能力の現状調査を行った。

調査は以下の要領で行った。

調査対象学生：一般基礎Ⅳ 選択科目「日本語法（A～I）」受講生²

学部3年生 254人 4年生18人 計272人

調査内容：下記の大設問一～五を設けた。

一	小学3年生で習う漢字	読み10問・書き15問	合計25問
二	小学4年生で習う漢字	読み10問・書き15問	合計25問
三	小学5年生で習う漢字	読み10問・書き15問	合計25問
四	小学6年生で習う漢字	読み10問・書き15問	合計25問
五	中学校で習う漢字	小学校で習う漢字の読みかえ 10問 中学校で習う漢字の読み 15問 中学校で習う漢字の書き 25問	合計50問

¹ 平成17年度は、A～Kの11クラス開講。

² 開講学期の関係で、今回の調査はA～Iまでの9クラスを対象とした。また調査の性質上、留学生を除いた。

小学校で習う漢字が100問、中学校で習う漢字が50問の合計150問。配点は各1点で、150点満点。

試験時間：40分

設問の仕方：読みの場合は「傍線部の漢字の読みがなを記しなさい」とし、書きの場合は「傍線部のカタカナを漢字に直し、送り仮名がある場合はそれも記しなさい。ただし、とめ・はね・はらいに気をつけて楷書で書くこと」と指示した。さらに、口頭で「楷書で正確に書かれていないものは×とします。楷書できちんと書いて下さい」と念を押した。

- 問題例：
- ・クラスの全員が、そのことを全く知らなかった。(大設問一)
 - ・ケガワのコートを着る。(一)
 - ・老人は老いた大木を切りたおした。(二)
 - ・地震にはゼンチョウがあるらしい。(二)
 - ・美しい布で布団を作る。(三)
 - ・ジキュウソウの後、血圧を調べる。(三)
 - ・音楽の授業でコンセイ合唱をした。(三)
 - ・フルートで美しい曲を奏でる。(四)
 - ・宇宙飛行士は、未来のニナイ手だ。(四)
 - ・自分の努力不足をツウカンした。(四)
 - ・先生は、時間を割いて会って下さった。(五)
 - ・心の琴線に触れる話を聞く。(五)
 - ・生存キョウソウに勝つ。(五)
 - ・野菜をソクセイ栽培する。(五)

I 全体の結果

まず各設問ごとの、合計点、最高点、最低点、平均点、正答率を、読み+書き、読み、書きに分けて、次ページ表1に示す。

読み+書きをまず見てみると、当然ながら、小学校で習う漢字の方が、中学校で習う漢字よりも正答率が高い。しかし小学校で習う漢字に限定すると、3年生の正答率が高いというものの、4年生から6年生までは差はほとんどなく、大学生にとっては、小学校の学習学年による難易度の差はほとんどないようである。

次に読みであるが、読みに限定すると正答率は上がる。とくに小学校で習う漢字の正答率は、95.00%と非常に高い。ほとんどの学生は、小学校で習う漢字については「ほとんど読める」ということである。さすがに中学校で習う漢字になると、正答率は20%ほど下がる。ただそれでも、

読みに関しては、中学校で習う漢字の76%は読めるという結果となった。また小学校の学年ごとの差は、読みについてはないと見ていいだろう。

最後に書きであるが、書きになると、極端に正答率が低下する。全体の正答率は、50.59%、小学校で習う漢字に限っても55.00%、中学校で習う漢字にいたっては、39.60%しかない。しかも最低点を見ると、3年生に習う漢字が1点、あとは4年生から中学校まで全て0点、小学校通年で見ても2点という低さである。小学校の学年ごとに見ると、3年生で習う漢字の正答率が突出して高い。次に5年生が高いが、これもほとんど差がないと見ていいだろう。

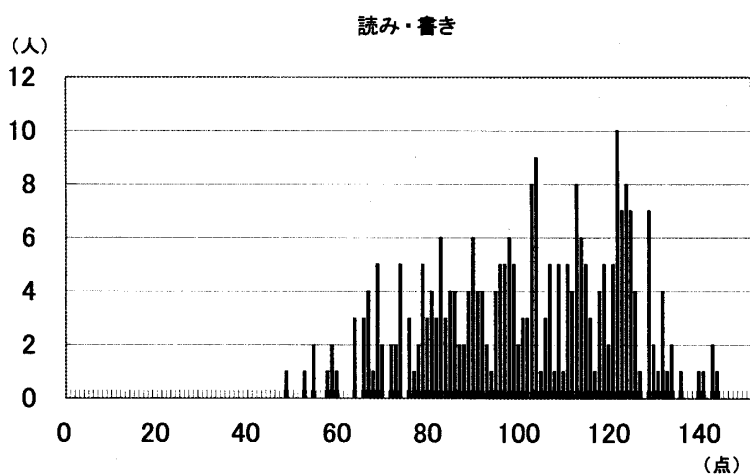
	読み+書き					読 み					書 き				
	合計点	最高点	最低点	平均点	正答率	合計点	最高点	最低点	平均点	正答率	合計点	最高点	最低点	平均点	正答率
小学校・中学校で習う漢字	150	143	48	100.4	66.93%	65	65	38	57.4	88.31%	85	80	2	43.0	50.59%
小学校で習う漢字	100	96	38	71.5	71.50%	40	40	29	38.0	95.00%	60	57	2	33.0	55.00%
中学校で習う漢字	50	47	9	28.9	57.80%	25	25	9	19.0	76.00%	25	24	0	9.9	39.60%
小学3年生で習う漢字	25	25	9	19.6	78.40%	10	10	5	9.4	94.00%	15	15	1	10.3	68.67%
小学4年生で習う漢字	25	25	0	16.9	67.60%	10	10	0	9.6	96.00%	15	15	0	7.3	48.67%
小学5年生で習う漢字	25	25	9	18.1	72.40%	10	10	6	9.7	97.00%	15	15	0	8.3	55.33%
小学6年生で習う漢字	25	25	8	17.0	68.00%	10	10	6	9.8	98.00%	15	15	0	7.2	48.00%

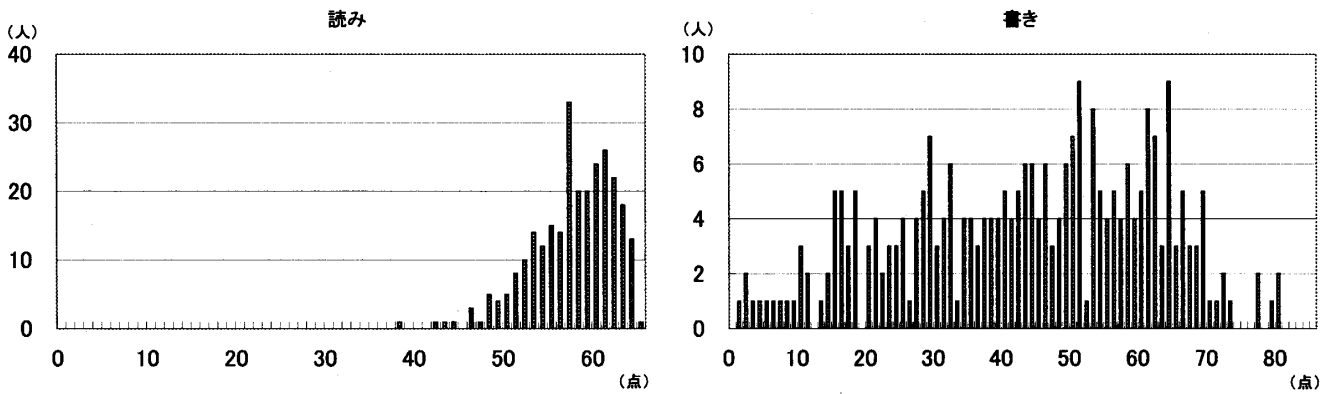
表1 全体の結果表

II 得点分布と誤答例

次に、全学年を通じたもの、および各学年ごとの得点分布をグラフで示し、簡単な分析と、多く見られた誤答について説明する。

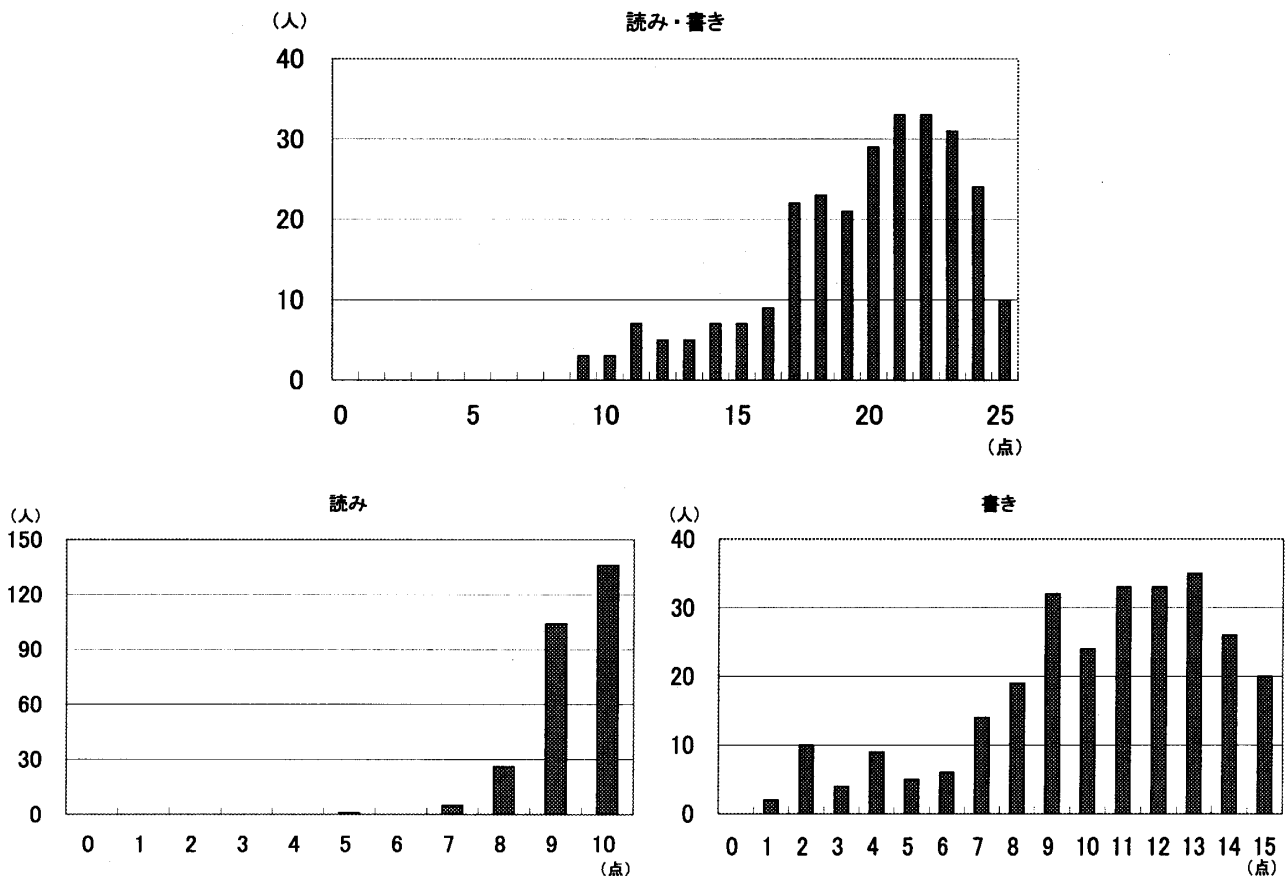
1 全学年を通しての結果





まず、読みと書きの得点分布が非常に異なっていることが分かる。読みは大きく右側に偏り、書きの方は、幅広く広がっている。つまり、学生の能力差は、読みではなく書きにあると考えてよいようである。もちろんこれは、ある程度予想したことではあるが、しかし、予想以上にその差は大きかった。学生の漢字能力を考える時、このことは十分注意する必要があるだろう。

2 小学3年生で習う漢字



全学年を通しての結果と同じく、読みと書きとでは分布が異なる。既に、小学3年生で習う漢字の段階で、書きについては、非常にばらつきがあることが注目される。

1) 読みの誤答について

誤答の中で多かったのは「根雪（ねゆき）」の読みである。

・誤答は40.8% その内訳は、	
「こんせつ」と読んだもの	33.0%
無解答	5.5%
その他	2.2%

「こんせつ」では意味が通らない。おそらく「根雪（ねゆき）」という語を知らなかったのだと考えられる。

意外だったのは、「氷水（こおりみず）」を「こうりみず（2.5%）」よりも、「ひょうすい（5.5%）」と誤答した解答の方が多かったことである。

2) 書きの誤答について

誤答には4種類ある。1つめは漢字の取り違い（漢字そのものは正しいが、問われているものとは異なる）、2つめは漢字そのもの間違い（部首違い、点・画違い）、3つめは「とめ・はね」に関する間違い、4つめは「送り仮名忘れ」である。

誤答で多かったのは、「シンリョク（新緑）のころ、野原に草が生えた」の「新」の文字である。

・誤答は65.4% その内訳は、	
「深」と記したもの	41.5%
「森」と記したもの	9.6%
無解答	1.5%
その他	12.9%

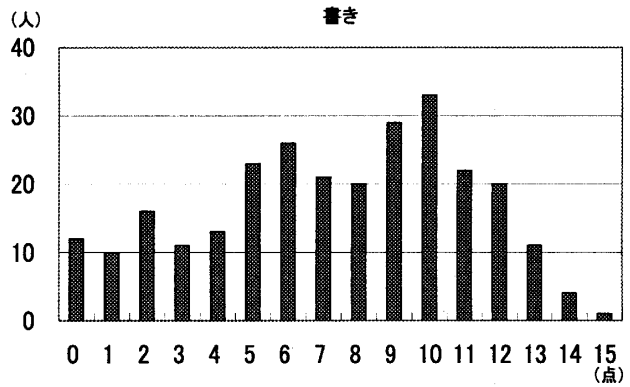
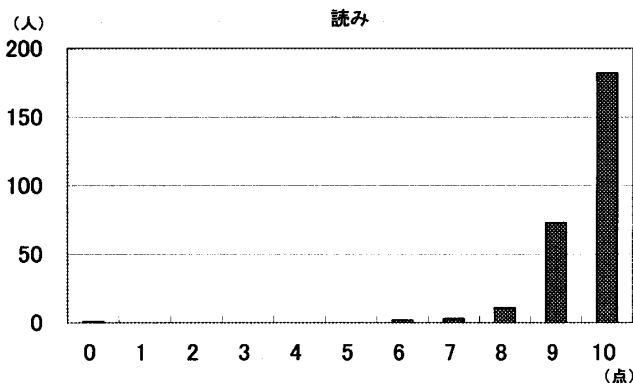
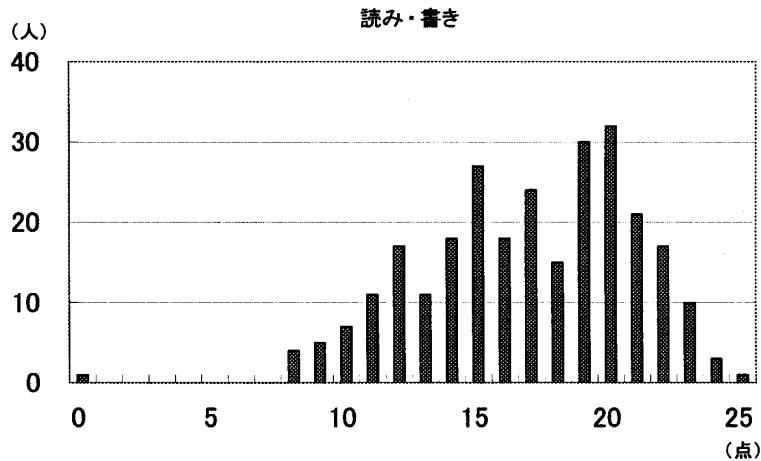
「深緑」という語は確かに存在するが、「濃い緑色」という意味なので、ここでは「四・五月頃の若葉のみどり」を意味する「新緑」と記して欲しいところである。又、「緑」を「縁（9.2%）」と記したものや、「テッキョウ（鉄橋）」の「橋」の木偏をノ木偏と記したもの（4.8%）もあった。

3つめの「とめ・はね」に関する間違いは非常に多く、減点の多くはこの部分で占められている。³「ケガワ（毛皮）」の「毛」の4画目や「皮」の2画目をはねていないもの、「ケンキュウ（研究）」の「究」の3画目をはねていない、5画目を曲がらずはらっている、7画目を曲がらずにはねたり、曲がって止めたりしているもの、「キタイ（期待）」の「期」の肉月の2画目、「待」の8画目をはねていないものといった具合である。

意外にも「ジョウバ（乗馬）」の「乗」の正答率は80.5%と高かった。間違える可能性の高い漢字として指摘されているため、小学生時代に気をつけて練習したのかもしれない。

³ とはいうものの、今回はかなり甘く採点した。

3 小学4年生で習う漢字



小学3年生で習う漢字と同様、読みと書きの差が大きい。小学3年生で習う漢字と比べると、読み+書きおよび書きの得点分布が、かなり左に移っていることが分かる。読み+書きは、書きに影響をうけたものだから、要するに、この段階で、既に書きについてはかなり厳しい結果となった訳である。既に表1に示したように、書きの正答率も小学校3年生に比べて20%ほど下がり、50%を下回っている(48.67%)。

それに対して、読みは、非常に好結果といってよいだろう。

1) 読みの誤答について

誤答の中で多かったのは「遠浅(とおあさ)」の読みである。

- ・誤答は22.4% その内訳は、
- 「とうあさ」と読んだもの 11.8%
- 「えんせん」と読んだもの 2.2%
- 「とおせ」と読んだもの 1.8%
- 無解答 1.5%
- その他 5.1%

小学3年生で習う漢字の読みとして出題した「氷水（こおりみず）」では「お」を「う」と記した誤答が2.5%だったのに対して、「遠浅（とおあさ）」では「お」を「う」と記したものが11.8%となっている。「遠い（とおい）」が読めれば読めるはずだが、熟語になると読めなくなるのだろうか。あるいは「お」と「う」の読みの違いを把握していないのかもしれない。

2) 書きの誤答について

誤答の中で多かったのは以下の通りである。

・「カモツ（貨物）列車」の「貨」の誤答は55.5% その内訳は、

「荷」と記したもの	18.4%
「化」の部分で「代」と記したもの	6.6%
他の漢字	2.9%
無解答	5.1%
その他	22.4%

・「医学ハクシ（博士）」の「博」の誤答は48.5% その内訳は、

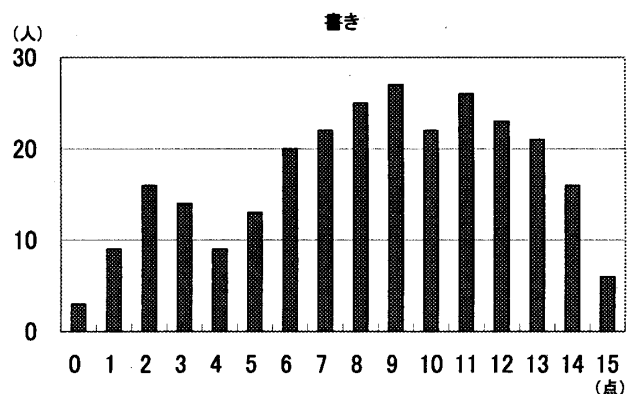
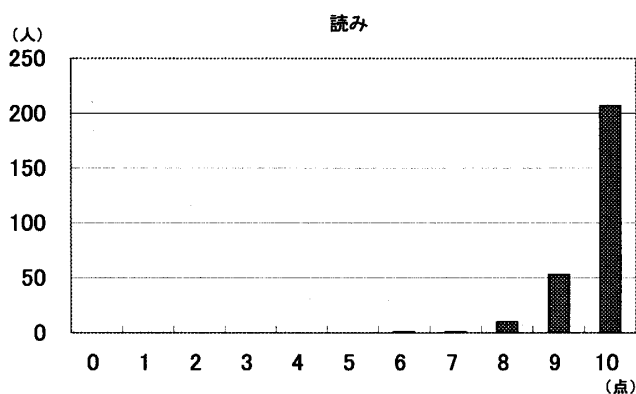
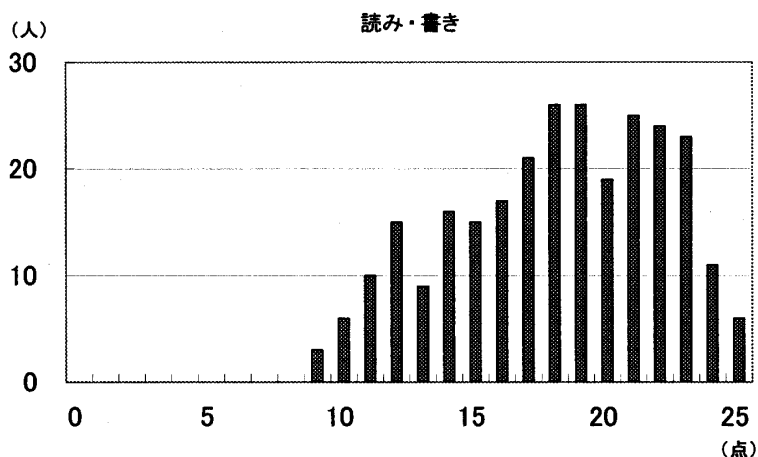
12画目のテンを記していないもの	30.1%
無解答	1.1%
その他	17.2%

・「病人は、二・三日ショウコウ（小康）を保っている」の「小康」の誤答は91.2% その内訳は、

他の漢字（床行・昇降・症候など）	24.6%
無解答	61.8%
その他	4.8%

「貨物」や「博士」という漢字の誤答の中で無解答の占める割合は「貨（5.1%）」「博（1.1%）」と低く、とりあえず漢字は記しているが間違っていた、ということになる。それに対して「小康」の誤答の中で無解答の占める割合は61.8%と高く、他の漢字を用いた誤答の24.6%を合わせると86.4%が、この語の意味をどうやら理解していなかったようである。漢字そのものの難易度は高くないので、熟語（語彙）としての難易度の問題だろう。おそらく日頃使わない熟語なのだと思う。

4 小学5年生で習う漢字



全体的な傾向という点では、小学4年生で習う漢字とあまり変わらないが、読みも書きも、高得点者がむしろ増えている。書きについては、低得点者も減るという傾向を見せている。ただし平均点（正答率）はほとんど同じである。

1) 読みの誤答について

誤答の中で多かったのは「編（あ）み物（もの）」の読みである。

・誤答は10.7% その内訳は

「あ」とのみ読んでいるもの 10.3%

その他 0.4%

「物（もの）」はおそらく読める（小学校3年生で習う）漢字なので、傍線部をしっかりと見ていないことが原因の誤答のようである。後にも述べるが、今回の調査では、このような「いい加減さ」が非常に目立った。一口に漢字能力といっても、そこには様々な問題がはらまれているのである。

2) 書きの誤答について

誤答の中で多かったのは以下の通りである。

・「英語のコウギ（講義）」の「義」の誤答は66.9% その内訳は、

「議」と記したもの	52.2%
無解答	1.8%
その他	12.9%

・「コジン（故人）はとても温厚な人だった」の「故」の誤答は29.0% その内訳は、

「個」と記したもの	6.3%
「古」と記したもの	4.4%
無解答	1.1%
その他	17.3%

・「ムラガル（群がる）」の誤答は54.8% その内訳は、

「群らがる」と記したもの	7.0%
「群る」と記したもの	5.5%
「群」と記したもの	6.6%
他の漢字	2.2%
無解答	19.5%
その他	14.0%

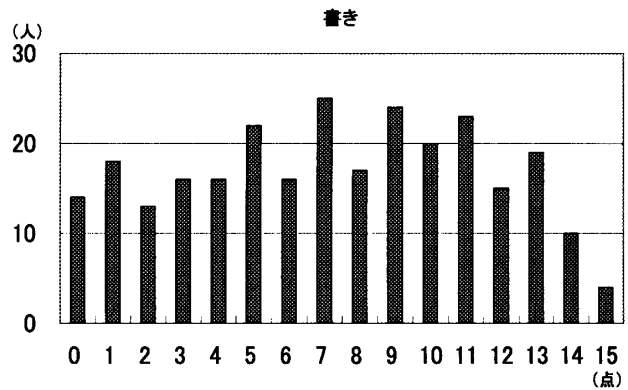
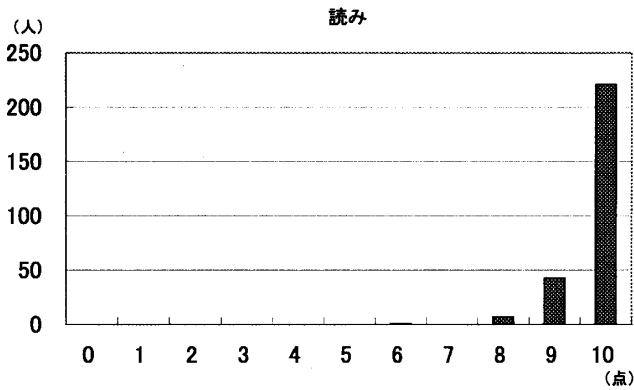
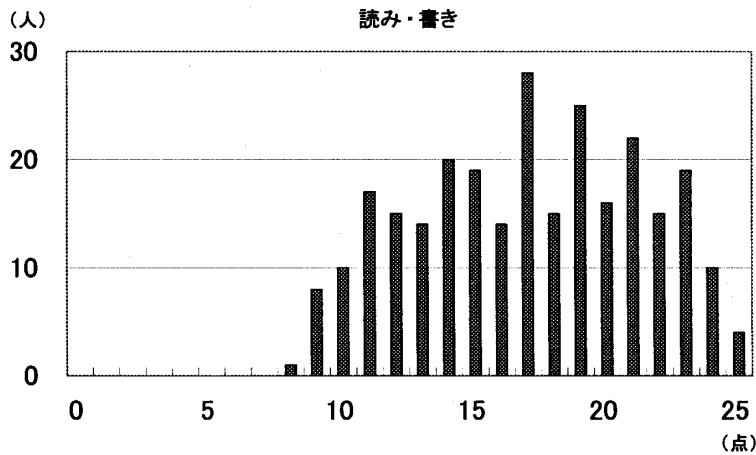
「講義」という漢字は、大学でよく目にし、書く機会も多いはずなのに「義」ではなく「議」を記した誤答が52.2%も占めている。「講」に釣られて「言（ごんべん）」を用いてしまうのだろうか（実は、「講義」の誤記は他の授業でも頻繁に見られる傾向にあり、今回の調査を行うことにした契機の1つなのである）。

「群がる」では送り仮名に関する誤答が19.1%を占めている。漢字そのものは覚えていても、送り仮名が不確かなのである。そして「講義」、「故人」という漢字の誤答の中で無解答の占める割合が「義（1.8%）」「故（1.1%）」なのに対して、「群がる」は19.5%もある。小学3年生で習う漢字の「根雪（ねゆき）」を「こんせつ」と読んだり、「氷水（こおりみず）」を「ひょうすい」と読んだりするように、訓読は苦手なのかもしれない。

「とめ・はね」に関する間違いが多かったのは、「エイエン（永遠）」の「永」の2画目をはねていないもの、「遠」の8画目をはねているもの、「ジキユウソウ（持久走）」の「持」の2画目をはねていないものなどである。

又、「コウギ（講義）」の「講」や「コジン（故人）」の「故」の「口」の部分の2画目と3画目をつなげて2画で記しているものも多く見られた。

5 小学6年生で習う漢字



傾向という点ではこれまでの結果と同じであるが、やはり読みの結果は依然として非常によい。書きの結果が非常に悪く、かなり左に偏りを見せている。

1) 読みの誤答について

意外だったのは、「生卵 (なまたまご)」を「せいらん」と読んだものが5.5%あったことと、「美しい曲を奏 (かな) である」の読みがほぼ100%正解だったことである。「根雪 (ねゆき)」を「こんせつ」と読んでは意味がよくわからないように、「生卵 (なまたまご)」を「せいらん」と読んでしまっは意味が通らない。とりあえず音読するのだろうか。それにしても「奏である (かなでる)」は難易度が高い読みであるはずなのに、正答率があまりに高いことに驚かざるを得ない。おそらく何か理由があるはずだが、今のところよく分からない。

2) 書きの誤答について

誤答の中で多かったのは以下の通りである。

- ・「サンパイシャ (参拝者)」の「拝」の誤答は56.6% その内訳は、
 つくりの横画が3画のもの 16.2% 「配」と記しているもの 3.7%

他の漢字	7.4%	手偏をはねていないもの	11.0%
無解答	17.3%	その他	1.1%

・「未来のニナイ (担い) 手」の「担い」の誤答は68.4% その内訳は、

「任い」と記しているもの	11.0%	「但い」と記しているもの	4.4%
「荷ない」と記しているもの	4.4%	他の漢字	4.8%
手偏をはねていないもの	7.7%	「担」と記しているもの	3.7%
無解答	31.6%	その他	0.7%

・「国王ヘイカ (陛下)」の「陸」の誤答は90.1% その内訳は、

「陸」と記しているもの	8.8%	「階」と記しているもの	7.0%
他の漢字	19.5%	無解答	43.4%
その他	11.4%		

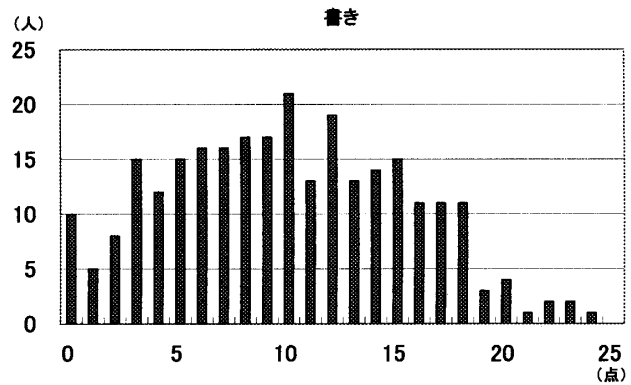
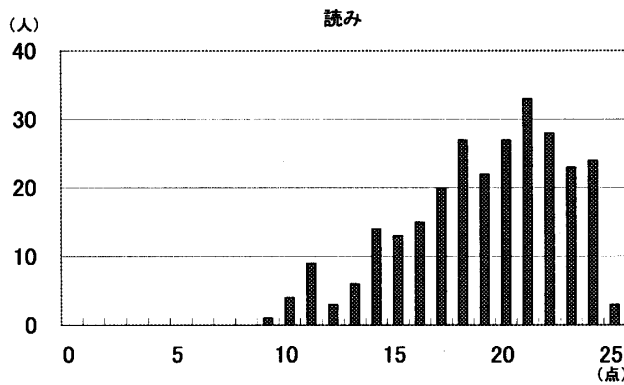
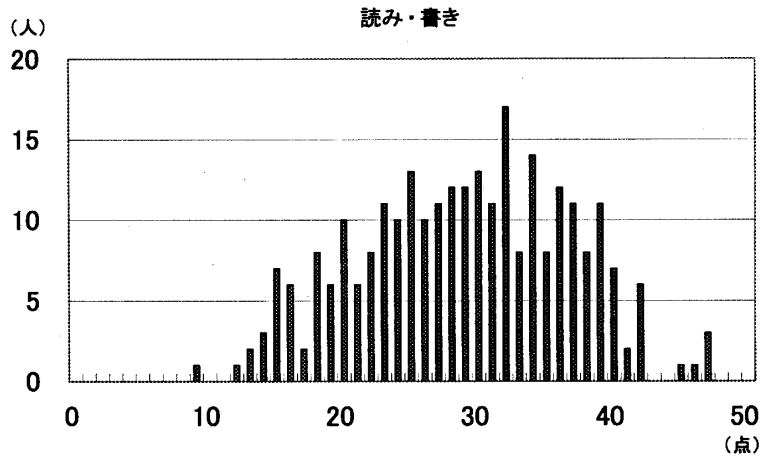
だんだんとあやふやな漢字の割合が高くなってきているようである。「参拝者」の「拝」では、つくりの横画が4画なのに3画で記しているものが16.2%、他の漢字を記しているものが11.1%、無解答も17.3%を占めている。「担い」では他の漢字を記しているものが24.6%、無解答が31.6%を占め、正しい漢字が書けなくなっている。そして「陛下」の「陸」の誤答は90.1%にもなり、他の漢字を記しているものが35.1%、無解答が43.4%を占めている。普段、目にしないためだろうか。

漢字そのもの間違いとしては、「コンナン (困難)」の「難」や「スイシンリョク (推進力)」の「推」のふるとりを、3画目と4画目を一筆で書き、1画目と2画目とは離して書いてある (4画目の横棒が1画目、2画目と繋がっていない) ものや、「サンパイ (参拝)」の「参」の6・7・8画目を、左上から右下へはらっているものなどが目立つ。

「とめ・はね」に関する間違いとして多かったのは、手偏をはねていないもの他、「キキ (危機) をのがれる」の「危」の3画目をはねているもの、5画目を曲がらずにはねているもの、「わたしたちの体内には、いくつかのゾウキ (臓器) がある」の「臓」の17画目をはねていないものなどである。

又、「ヒミツ (秘密)」の「必」の書き順が間違っているらしく、バランスのとれていない文字が多く見られた。

5 中学校で習う漢字



さすがにこの段階になると、読みの方も、急激にばらつきが見られるようになる。書きの方も、大幅に左に寄り、高得点者は激減している。

1) 読みの誤答について

a) 小学校で習う漢字の読みかえ

中学校で習う漢字のうち10問は、小学校で習う漢字の読みかえとして出題した。表1には示さなかったが、平均点は、8点、最高点は10点、最低点は4点である。

誤答の中で多かったのは以下の通りである。

- ・「著（あらわ）した」の読みの誤答は93.0% その内訳は、

「しるした」と読んだもの	50.0%	「ちょした」と読んだもの	28.3%
「いちじるした」と読んだもの	2.6%	無解答	8.5%
その他	3.7%		
- ・「机上（きじょう）」の読みの誤答は22.8% その内訳は、

「たくじょう」と読んだもの	12.9%	他の読み	4.0%
無解答	3.7%	その他	2.2%

・「臨（のぞ）んだ」の読みの誤答は23.2% その内訳は、

「いどんだ」と読んだもの	6.6%	「たたずんだ」と読んだもの	5.1%
無解答	5.5%	その他	5.9%

「著（あらわ）した」の誤答93.0%は非常に高い。「ちょ」「いちじる」という読み方があるが、「ちょ」は音読みなので送り仮名はつかないし、「いちじる」は動詞ではない。それよりも何よりも、「ちょした」「いちじるした」は日本語として変だとは感じていないのだろうか（感じてはいると信じたいが）。ちなみに50.0%を占めている「しる」という読み方は「著」にはない読みである。

b) 中学校で習う漢字の読み

中学校で習う漢字の残り15問は、中学校で初めて習う漢字を出題した。これも表1には示さなかったが、平均点は、11点、最高点は15点、最低点は3点である。

・「批准（ひじゅん）」の誤答は35.7% その内訳は、

「ひすい」と読んだもの	25.4%	他の読み	6.3%
無解答	3.3%	その他	0.7%

・「琴線（きんせん）」の誤答は57.4% その内訳は、

「ことせん」と読んだもの	32.7%	「こせん」と読んだもの	3.7%
「きせん」と読んだもの	3.3%	他の読み	8.5%
無解答	9.2%		

・「枢軸（すうじく）」の誤答は41.2% その内訳は、

「くじく」と読んだもの	20.2%	「ちゅうじく」と読んだもの	8.1%
「きじく」と読んだもの	4.8%	他の読み	4.0%
無解答	3.3%	その他	0.7%

・「嫡男（ちゃくなん）」の誤答は57.0% その内訳は、

「てきなん」と読んだもの	5.9%	「おい」と読んだもの	4.8%
「ちゃくし」と読んだもの	2.2%	「てきお」と読んだもの	1.8%
「しゃくなん」と読んだもの	1.8%	他の読み	15.4%
無解答	23.9%	その他	1.1%

ここでは不思議な読みが多く見られる。おそらく「批准」「琴線」「枢軸」「嫡男」といった熟語は見慣れていないのだろう。たとえ自分が使うことはなくとも、目にする機会もないのだろうか。

2) 書きの誤答について

誤答が多かったのは以下の通りである。

・「ボクメツ（撲滅）」の「撲」の誤答は73.5% その内訳は、

「僕」と記したもの	9.2%	「手偏+業」と記したもの	5.5%
「？」を含む他の漢字	9.6%	無解答	37.1%

その他	12.1%		
・「人権をヨウゴ（擁護）する」の「擁」の誤答は95.9% その内訳は、			
「養」と記したもの	17.6%	「容」と記したもの	5.9%
「用」と記したもの	1.8%	「要」と記したもの	1.8%
「？」を含む他の漢字	14.0%	無解答	50.7%
その他	4.0%		
・「十両ヘンセイ（編成）の列車」の「編」の誤答は56.6% その内訳は、			
「偏」と記したもの	16.5%	他の漢字	2.9%
無解答	17.3%	その他	19.8%
・「話が（カキョウ）佳境に入る」の「佳」の誤答は88.9% その内訳は、			
「過」と記したもの	11.0%	「架」と記したもの	9.2%
「下」と記したもの	4.4%	「華」と記したもの	2.2%
「渦」と記したもの	1.8%	他の漢字	1.8%
無解答	57.7%	その他	0.7%
・「意味シンチョウ（深長）」の「深長」の誤答は81.6% その内訳は、			
「慎重」と記したもの	26.1%	「深重」と記したもの	16.1%
他の漢字の組み合わせ	7.0%	無解答	27.6%
その他	4.8%		

「撲滅」の「撲」や「擁護」の「擁」は確かに画数も多く覚えにくい漢字かもしれない。しかし「人権擁護」の「擁」が「養」や「容」「用」「要」では意味が通らない。又、「編成」の「編」や「佳境」の「佳」がそれ程難しい漢字とは考えられない。にもかかわらず他の漢字を当てるとするのは、その熟語を知らないということなのだろうか。それとも意味を考えて漢字を記しているわけではないということなのだろうか。「意味深長」の「深長」もそれ程難しい漢字の組み合わせではない。どうやら熟語の意味を考えて漢字を記しているわけではなく、その熟語を知らずに漢字を当てはめているようだ。「分からなくともとにかく答案用紙を埋めなさい」という「受験？指導」を受けてきた学生なのかもしれない。

Ⅲ 誤答の特徴と考察

各学年ごとの得点分布と誤答については以上の通りである。そこで次に全体的な誤答の特徴について述べる。

読みでは、音読みの方が訓読みより正答率が高く、本来訓読みすべき漢字までも音読みしてしまっている場合もあり、意味が通らなくても、とにかく音読みをしてしまうようである。中学で習う漢字の読みになると、不思議な読み方が増えてくる。どうやらその語の意味を考えて読んでいるわけではなさそうで、その語自体を知らないようである。

書きでは、漢字は記してあるものの正確ではないために誤答となっているものや、送り仮名があやふやなものが多い。中学で習う漢字の書きでは、無解答の割合が高くなっていく。小・中学校で習う漢字の両方で見られるのは、画数が多く、見た目が難しそうな漢字の誤答が必ずしも多いという訳ではないということである。特に中学で習う漢字の正答率が下がるのは、中学の国語では小学校の国語のように漢字の習得に力を入れないためかもしれない。小学校の国語で教科書準拠の漢字ドリル（漢字スキル）を用いて繰り返し練習することは、漢字の習得に大きな役割を果たしているようである。

別の字を書いた誤答では、意味を考えて漢字を選んでいるわけではなく、とりあえず知っている漢字を当てているようである。そのため、あり得ない漢字の組み合わせも出現することになる。これらは、漢字能力の問題というよりむしろ語彙力の問題と言えそうである。

中学校で習う漢字を用いた語彙が身につけていないというのは非常に大きい問題である。読めない・書けないということは、つまりは、その語の意味を知らないということである。日常生活で使わない語なのだろうが、それはつまり、そのような言葉を知らなくても過ごせる程度の日常生活しか送っていないということである。もちろん知識として知っているだけでは意味がないが、しかし語彙の貧しさは、表現能力、コミュニケーション能力、ものを感じる能力、認識能力、思考能力等々に、深く影響を及ぼす重要な問題なのではないだろうか。

次に、解答欄を見ていて感じることは、文字の雑さである。読みの解答は平仮名で記されているのだが、「う」と「ら」、「お」と「す」と「よ」、「か」と「や」、「ゆ」と「れ」と「わ」の違いが見分けられない文字、「な」の3画目の点が記されていない文字、「は」の2画目と3画目が交わっていない文字、「ほ」の右側が「ま」と記されている文字、濁点の位置が文字の右上ではなく右下にある文字などが非常に多い。

書きの解答では、「とめ・はね」に関する基本が押さえられていない文字が目立った。「木」偏の2画目や「糸」偏の4画目ははねないでとめる、「手」偏の2画目や「月」の2画目ははねるといった基本である。又、「しんじょう」のバランスのとれていないものも多かった。これらは正解を知った上で適当に書いているものと、知らずに誤魔化して書いているものがあるだろうが、ともかく、文字が非常に雑な答案が多かった。問題文に「楷書で書くこと」と注意書きがあり、口頭でも念を押したにも関わらず、つなげて記されていたり、角がなかったりとても楷書とは言えない文字も多くあった（採点中、「ひょっとして楷書という言葉の意味が分からなかったのでは」と心配になったほどだ）。

このような文字の不正確さ（雑さ）の原因の一つには、パソコンや携帯電話の普及により、自分で文字を記す機会が減っていることが挙げられるだろう。パソコンや携帯電話では、勝手に平仮名を漢字に変換してくれるため、漢字があやふやになっていくことは分かる。しかし、平仮名まで不正確になっているとは、一体どういうことなのだろうか。デザイン文字や飾り文字のような平仮名も、やはりパソコンや携帯電話の影響なのだろうか。

それよりもむしろ、学生たちの意識の問題が大きいと考えた方がいいように思う。普段書く自

分のノートや日記の文字について言っているのではないのである。これは、正確さを要求されている漢字の調査であり、問題用紙でも口頭でも注意を促してあるのである。それにも関わらず、不正確な文字を記してよしとする意識自体に、問題が潜んでいると考えるべきだろう（ちなみに今回は、調査の趣旨に鑑み、かなり甘く採点した。入試レベルとまでいかなくとも、例えば小学校の漢字テストレベルの基準で採点すれば、結果はもっと悪くなったのである）。

当然このような意識が、漢字調査に限ったことであるはずがない。日常全てがそうだとはいわないが、誰かの指示に従ったり正確さを要求されたりすることはいくらでもあるはずだが、それらを全てきちんとこなし、漢字調査だけいい加減にやるということは考えられない。「おわりに」でもう一度触れるが、ここには現代社会の価値観が色濃く反映されているようである。

おわりに

今回の調査は、漢字能力に限定して、読みと書きを記述式で行った。そのため書きでは正答率がかなり低い結果となった。ここから、漢字を記す基本が押さえられていない、つまり正確に書くという能力の不足が明らかになったのだが、例えば選択肢を用意し、漢字を選択する方法で調査したらおそらく異なる結果が出るだろう。一口に漢字能力といっても、そこには種々の側面が潜んでいるようである。それを明らかにするためには、異なる調査方法による、より詳細な調査が必要だろう。

また、日本語能力を考えると、漢字能力に限定せず、範囲を広げて、ことわざ・故事成語・四字熟語、音読する力⁴といった能力等についても調査する必要がある。

さらに今回の調査で明らかとなったのは、漢字能力が、単に漢字を知っているかどうかという問題にとどまらず、現代社会の価値観、ものの考え方と密接に関わっているということである。日本語法の授業で提出される課題文でも、あるいは入試の小論文でも、例えば句読点をきちんと打たない（句読点の区別がない、句点をピリオドのように「。」とするなど）ものが見られるし⁵、平仮名の濁点や漢字の点などが不適切な位置に打たれているものがしばしばある。「きちんと正確に」という価値観が後退し、「だいたい、適当に」という価値観が優勢になっていることの現れなのだろう。

文字なんてコミュニケーションの道具^{ツール}なのだから、それが他の文字と誤解されない、ある特定の文字であることが分かれば、点の位置や、留め、はね、はらいなどどうでもよいではないか、という考え方もありうるのかもしれない。もちろん私たちも、小学校で最初に習う時くらい正確にマス目を引いて書かなければならないと考えている訳ではない。ただ今回の答案には、他人が

⁴ これも日本語法の授業で近年気になることであるが、学生の音読を聞いていると、学生の意識の中で、文章を正確に読むということが非常に疎かにされているように思う。

⁵ ただし、工学部系の学会では、「と。」を標準の書式として求めるところもあるらしいので、その影響も考えられなくはない。

それを読むという想像力が欠如しているのではないか、と思われる答案がたくさんあったということである。「きちんと書くように」という念を押された試験であるにもかかわらず、である。それは既に、そもそもコミュニケーションの道具であるということすら意識されていないということではないだろうか。

「だいたい合ったらそれでいいではないか」「なんとなく知っていたらいい」という価値観の下で、しかも講義ノートも手紙もパソコンで書くような時代にあって、漢字能力、日本語能力、コミュニケーション能力とは何か、ということから根本的に考え直さなければならないようである。

漢字能力、日本語能力は、現代社会の問題そのものである。

- 参考文献：『中学校学習指導要領（平成10年12月）』（平成10年12月初版 平成16年1月改訂版 独立行政法人国立印刷局編集発行）
- 『達人シリーズ 改訂版漢字習熟プリント 小学校中学年』（岸本裕史・学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会編著 清風堂書店出版部 2001年12月）
- 『達人シリーズ 改訂版漢字習熟プリント 小学校高学年』（岸本裕史・学力の基礎をきたえどの子も伸ばす研究会編著 清風堂書店出版部 2001年12月）
- 『いつでも手軽に基本練習 中学5分間トレーニング 漢字練習Ⅱ・Ⅲ』（教学研究社）

〔付記〕本調査の実施にあたって、日本語法担当の、鈴木裕子、鹿島美千代、橋本ゆかり、日比野浩信の各先生にご協力頂いた。記して感謝申し上げる。